



## 環境に配慮した製品開発・農園事業への進出

独自の技術を利用した環境に配慮型のコンクリート製品関連は多方面で高い評価を得ており、農業分野でも成果が見えてきている。連携先企業と、平成 24 年春頃に、農園事業への進出も準備中である。

### 業況等の動向について

#### 本業の動向について

コンクリート、コンクリート製品、セメントの製造。道路や下水、河川といった土木の方面の製品や、日本規格認証製品等で安定している。

#### 異業種参入事業の概要

環境に配慮したコンクリート製品関連は多方面で高い評価を得ており、農業分野でも成果が見えてきている。

現在の規模は売上高 100,000 千円、売上高構成比 4.0% である。具体的な事業内容は以下の通り。

##### 1. 環境に配慮したコンクリート製品の製造

ノックスキラーの開発(光触媒をコンクリート表面に塗布すると、大気浄化、防汚、水質浄化に効果がある)

ポーラス遮音壁の開発(当社独自の特殊技術)

保水性、透水性に優れたコンクリート製品の開発

##### 2. 農業分野への土木工学活用

キラーボールの開発(産業副産物を活用した抗菌セラミックボール。日常生活から食品、農業、園芸、植樹まで幅広く活用)

ポーラスポットの開発(産業副産物を活用して長寿命、通気性に優れ、軽量で、連作障害を防止し、地質の影響を受けずに農作物が栽培できる)

#### 異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

従来のコンクリート製品では業績等を保てない。昨今の環境の悪化を回復させたい。土木の面から農業を変える。大量生産や雇用の創出に繋げる。誰にでも、どこでも農業ができるようにしたい、など。

#### マーケティングについて

市場動向や助成金制度を受ける際にコンサルティングなどを受けた。

#### 参入に際しての投資について

研究開発他、マーケティング関連、コンサルティング関連に 100,000 千円を投資。

#### 参入して最も成果のあったこと

光触媒製品では、多方面で使用され高い評価を得ている。多方面の企業等と連携を図るなどを行い新事業に繋がった(農業分野への土木の応用)。

#### 参入して最も困難だったこと

実績がなく理解を得られなかった。資金面調達において苦労した。

#### 参入に際して活用した自社の技術ノウハウについて

骨材とセメントからなるコンクリート部材に光触媒性能を形成、産業副産物などをセメントで固め、光触媒を施工する技術を活用(特許公開番号 2010-144439)。

外界空気中の汚染物質の除去。産業副産物の再利用によるリサイクル。光触媒性能付与による抗菌機能で、空気清浄や食品の腐敗を遅らせる。園芸用ハイドロカルチャー。雑草防除用途、などに活用できる。

#### 今後の展望・見通し

これまでの開発製品の市場への売り込みと、農園事業への参入を予定している。農園事業への参入は連携企業(有)パールハートと平成 24 年春、事業化に向け現在準備中。

#### メリット・デメリット

従業員の知識レベル上昇、視野の拡大、連携による製品開発や新規参入に繋がる。反面、失敗も多く多方面に影響が出る、成功に繋がることもある。本業への負荷も大きい。

#### 異業種参入時のアドバイス

参入分野に特化した金融機関があり、資金調達先をうまく探す。助成金・補助金制度を最大限に活用。固定概念を持たず、柔軟な思考を持つ。アイデアを形にする努力をする。良き協力者、理解者(社内・外を問わず)を得る。

### 行政の支援について

#### 異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

中部経済産業局「農商工等連携対策支援補助金」  
農林水産省「イノベーション創出基礎的研究推進事業発展型ベンチャー育成枠」  
科学技術振興機構(JST)「地域ニーズ即応型研究」。

#### 異業種参入に際し、行政に対して望む支援

異業種参入等に対して実践主義ではなくもっと視野を広げ、規制緩和等に柔軟に対応してほしい。

#### 会社概要

設立: 1962 年(昭和 37 年)5 月

資本金: 2,500 万円

従業員数: 90 名

URL: <http://www.taiyu-con.jp>